

令和4年度

学生によるオレンジリボン運動

京都文教大学 実施報告書



実施主体 プロジェクト科目ⅠB「多様な私たちがともに暮らす地域」クラス
実施内容 公開授業の実施、幟やポスターの掲示、オレンジリボン・クリアファイル・パンフレットの配布と配架、合同成果発表会での動画の公開

①事前に取り組んだ内容

学生たちが、児童虐待の種類や件数の推移、背景、対策、児童相談所について、子ども食堂についてなど、それぞれ調べて授業内で発表を行った。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

元京都府児童相談所所長であり本学教員でもあった柴田長生氏による講演を公開授業として実施し、児童虐待についてや、オレンジリボン運動についての理解を深めた。その上で、昨年度まで柴田氏がこども教育学部で実施していた幟やポスターの掲示を引き継ぎ、臨床心理学部と総合社会学部学生で構成されるプロジェクト科目ⅠB「多様な私たちがともに暮らす地域」クラスで実施した。また、教職課程の授業内でクリアファイルにオレンジリボンや児童虐待防止パンフレットを挟んで配布し、普及啓発を行った。さらに図書館職員にも協力頂き、クリアファイルやオレンジリボン等の配架をして頂いた。最後に動画を作成し、プロジェクト科目合同成果発表会で公開して、他学生や教職員の評価を仰いだ。

③オレンジリボン運動を終えて…

学生たちは児童虐待問題に強い関心を持ち、熱心に参加していた。内気な学生であっても、自分のカバンにオレンジリボンをつけるなど、できることはあるという発見があった。

授業で講義を聞くだけでなく、自身が活動することでオレンジリボンに対する親近感が湧き、児童虐待問題やその対策により強い関心を持つことに繋がったものと思われた。

写真





【京都文教大学】 <https://www.kbu.ac.jp/kbu/>